

■トークセッション登壇者紹介

家崎 晶 氏（岩泉町地域づくり支援協議会 復興支援員）

新潟県上越市生まれ。大学卒業後、新潟で住宅リフォーム業の営業として3年間勤務。2012年に第22次龍泉洞再測量調査に参加して以降、ケイビング（洞窟探検）の魅力の虜となる。2015年4月より岩泉町地域づくり支援協議会に勤務。現在は龍泉洞の調査を継続しながら、三陸ジオパーク推進や観光ガイドといった観光事業のサポートや、岩泉の自然や文化を大切にしたい自主事業の企画などに携わる。

森 優真 氏（石巻市6次産業化・地産地消推進センター 産業復興支援員）

東京にて植物油由来のバイオ燃料普及事業に携わり、実験的に農業への活用などを行った経験から、1次産業と環境分野の融合に興味を持つ。東日本大震災後ボランティア活動で石巻を訪れ、漁業の壊滅的被害を目の当たりにするも、復興の過程には、新たな1次産業振興の可能性が存在することに着目。その後2014年11月に現職へ着任。市内の1次生産者が生産した製品の販路開拓、商品開発、ブランディングサポート等に従事。今後はバイオエネルギーと漁業等、環境技術と1次産業の融合による6次産業化への可能性を探っていく。

歳森 健司 氏（一般社団法人ならはみらい）

大学卒業後、海運会社に勤務。退職するまでの23年の間に営業、経理、保険購買、客船事業の企画運営、内部監査業務等に従事する。40代半ばを過ぎ、これからの生き方を模索したいと会社を退職することを決めたタイミングとほぼ同じくして、「WORK FOR 東北」の募集記事を見つけ応募。福島県の復興支援員となり、縁あって福島県楢葉町のまちづくり会社「一般社団法人ならはみらい」に設立時より参画。空き家・空き地バンク運営事業、放射線不安払拭事業から、町民祭りの企画運営まで、町民に寄り添ったまちづくり活動に従事している。

ファシリテーター：青柳 光昌（日本財団「WORK FOR 東北」事業統括）

1991年に日本財団に入会。阪神淡路大震災後の復興支援活動にはじまり、障害者の移動困難の解消、NPO支援センターの強化といった市民活動のテーマに取り組む。2011年3月の東日本大震災後には、財団内に立ち上げられた支援センターのリーダーの任に就き、企業や行政と連携した数多くの支援事業に携わる。独ダイムラー社との協働で東北のビジネスリーダー育成のための奨学金プログラムの創出や、復興庁との協働で実施している「WORK FOR 東北」プロジェクトなどを通じて、人材の視点から地域づくりに取り組んでいる。

■プレゼンテーション・個別相談会参加団体

岩手県（3団体）

・釜石市（釜援隊） ・ 陸前高田市 ・ 岩泉町地域づくり支援協議会

宮城県（3団体）

・ 石巻市 ・ 石巻市6次産業化・地産地消推進センター ・ 女川町

福島県（3団体）

・ 浪江町 ・ 双葉町復興支援員（一般社団法人RCF） ・ ふくしま連携復興センター

東京都（3団体）

・ NPO 法人 ETIC.

計 10 団体（予定）

日本財団「WORK FOR 東北」 これまでの実績

■「WORK FOR 東北」を通じて、これまでに 133 人（2015 年 12 月 31 日時点）が復興の現場に赴任

■赴任者のうち、127 人が個人での応募による

■赴任者のうち、6 人が企業からの派遣（出向）による

＜派遣実績企業＞

- ・ TOTO 株式会社（3 人） ・ 株式会社リクルートライフスタイル
- ・ パナソニック株式会社 ・ プライスウォーターハウスクーパース株式会社（PwC）

■赴任者はビジネススキルを活かし、企画・営業的な業務や、IT など専門性の高い業務で活躍中

＜赴任者の業務（一例）＞

- ・ 岩手県釜石市 観光戦略立案
- ・ 岩手県釜石市 市役所職員の人材育成計画立案
- ・ 宮城県石巻市 市内事業者の販路開拓支援、海外輸出の促進
- ・ 宮城県石巻市 市内事業者のインターネット販売支援、テレワークの推進
- ・ 宮城県女川町 町内製品の販路拡大、漁業体験施設のプロデュース
- ・ 福島県双葉郡 8 町村が協働で取り組む「福島県双葉郡教育復興ビジョン」の推進
- ・ 福島県浪江町 町民向けに配布されたタブレット用のアプリ開発プロジェクト
- ・ 福島県浪江町 町史の編纂

など